



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

幼児期における情動特性、自己制御と問題行動

著者	齊木 久代
雑誌名	聖和短期大学紀要
号	4
ページ	11-19
発行年	2018-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10236/00027169

幼児期における情動特性、自己制御と問題行動

Emotional Traits, Self-regulation and Problem Behavior in Early Childhood

齊 木 久 代 *

要 約

幼稚園年長組園児に対して、家庭での対象児の健康、日常生活上の問題行動について保護者に回答を求めた。また、対象児の情動特性、自己制御機能評価について、幼稚園の担任教諭に評価を求めた。その結果、「寝起きが悪い」「外であまり物を言わない」傾向が有るとされた群は無群に比して、「恐れ」「悲しみ」得点が有意に高かった。「幼稚園に行くのを嫌がる」傾向があるとされた群は、「受容」「喜び」得点が低かった。また、「どもる」「ぜんそく（ゼーゼーいう）がある」傾向を有する群は、自己主張・実現総得点が無群に比して低かった。一方、「家事などのお手伝いをする」有群では、自己主張・実現総得点が高い傾向にあった。即ち、「恐れ」「悲しみ」の情動が睡眠の質に、自己制御の在り方が情緒的問題やぜんそく等の身体的健康に関連する一方で、家事の手伝いをするといった行動が子どもの望ましい自己制御機能の発達を促す可能性が示唆された。

キーワード：情動特性、自己制御、問題行動、幼児期

I はじめに

人類は、ヒトの頭脳では、到底、記憶、処理できない程の膨大な情報を操る術を手に入れ、現在、第4次産業革命が起こり、本格的な実用化の段階に入りつつある。社会が人に求める能力が変化するこのような状況を踏まえ、中央教育審議会は、「2030年とその先の社会の在り方を見据えながら、学校教育を通じて子供たちに育てたい姿」を念頭において、平成28年12月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善および必要な方策等について」（答申）を提出した。

これを受けて作成された新たな幼稚園教育要領では、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続にも配慮した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が次の10項目として明確に示されている。すなわち、「①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量・図形、文字等への関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現」である。

さらに、各項目の具体的な姿として、「充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ……」（①健康な心と体）、「身近な環境に主体的に関わり、……諦めずにやり遂げることで達成感を味わい」（②自立心）、「友達との関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し」（③協同性）、「自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら」（④道徳性・規範意識の芽生え）、「人との様々関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ」（⑤社会生活との関わり）、「新しい考えを生み出す喜びを味わい」（⑥思考力の芽生え）、「自然への愛情や畏敬の念……身近な動植物に心を動かされる中で、……命あるものとしていたわり、大切にすることをもち」（⑦自然との関わり・生命尊重）、「先生や友達と心を通わせる中で、……豊かな言葉や表現を身に付け」（⑨言葉による伝え合い）、「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、……感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲を持つようになる」（⑩豊かな感性と表現）（pp.4-5）等を

* Hisayo SAIKI 聖和短期大学 教授（保育科 教育心理学、臨床心理学）

あげている。

機械的な知識の記憶や処理を情報機器が代替するようになるこれからの時代において、幼児期における情動、動機づけの側面の適切な育みの重要性を意識したものと考えられる。幼児期は、原初的な情動システムが、認知機能の発達とともに生じる自己概念をとまって、より複雑に形成される時期である。この時期に形成される情動システムは、健康、対人関係、学習意欲等、その後の生活、行動基盤に重要な役割を演じる。

ヒトが生得的にもっている情動システムに関連して、Plutchik (1962, 1980) は、情動を「進化論的適応をその基盤とするコミュニケーションと生存のためのメカニズムである」と仮定し、情動の心理進化論を展開した。そして、この適応行動の基本類型として次の8つの機能を有する行動原型を考え、これに対応する基本情動を仮説構成概念として設定し、それらを主観的、行動的、機能的側面などから説明している。

また、Plutchik & Kellerman (1974) は、情動の特性的側面に注目して、その個人差を測定する検査、Emotions Profile Index (以下 EPI と略す) (Plutchik & Kellerman, 1972; Hama & Plutchik, 1975) を作成した。この検査では、12個の特性語を一对比較して、対提示された特性語のうち普段の自分をよく表していると思う方の語を選ぶことを求められる。結果の処理段階では、各特性語の基礎となる情動の構成要素に対して得点化がなされる。評価の対象となる特性語と主な構成要素とされる情動は次のとおりである：冒険ずき（驚き、期待）、心やさしい（受容、喜び）、むっつりと（怒り、悲しみ）、用心ぶかい（期待、恐れ）、ゆううつな（悲しみ、怒り）、考えなしに（驚き、怒り）、すなおな（受容、恐れ）、けんかずき（怒り、嫌悪）、おこりっぽい（怒り、嫌悪）、自分を意識する（期待、嫌悪）、内気な（恐れ、期待）、社交的（受容、喜び）（松山・浜, 1974；三根（齊木）, 1993）。

さらに、Plutchik (1980) は、EPI の12の情動特性語に対応する記述文を用いて幼児・児童用評定尺度 (Child Rating Index：以下 CRI) を作成している。Brody, Plutchik, Reilly, & Peterson (1973) は、小学校3年生60名を対象に担任教師に CRI の評定を依頼して、クラスにおける問題行動との関連を検討している。この結果、「用心深い」「自分を意識する」

「けんか好きな」「考えなしに」の項目得点の高い子どもには、問題行動が多かった。一方、「社交的な」の高い場合は、問題行動が少なかった。

三根（齊木）(1993) は、日本語版 CRI を作成し、幼稚園年長組園児に実施して、性差および知能指数との関連を検討している。さらに、三根（齊木）(1995) では、43～78ヵ月の幼児を対象として、日本語版 CRI を施行して、自己制御機能（柏木, 1988）との関連およびその発達の様相について検討している。

本報告では、日本語版 CRI（三根（齊木）, 1993）を用いて、幼児期における情動特性、自己制御機能と健康、問題行動との関連について検討したいと考える。

Ⅱ 方法

調査対象者

私立幼稚園年長組園児80名。

手続き

（1）「健康・行動状態」について

あらかじめ研究の目的、実施等について同意の得られた年長組園児（86名）の対象家庭に対して、浜・三根（齊木）(1996) で報告した質問表（広利・倉戸・渡辺・倉戸・山本・上原・村上・山本・若江・宝田, 1994）を持ち帰り法によって施行した（9～10月）。

本報告では、この中の「健康調査表」の結果を用いた。「健康調査表」については、主たる養育者に当該園児の「普段のありのままの姿を頭に浮かべて」、3段階評価（非常に－はい－ちがう、しばしば－時々－いいえ）を求めた。

（2）「感情・行動に関する評価」について

各園児の担任教師に対して、「感情・行動に関する評価表」（三根（齊木）, 1993；Plutchik, 1980；柏木, 1988）を配布して、園における各児の行動傾向に基づき、9段階評価（1～9：めったにない－時々する－しばしばする）を依頼した。

Ⅲ 結果と考察

最終的に有効な回答が得られた80名について、以下の分析を行った。

1 「健康・行動状態」と「感情・行動に関する評価」

項目得点

「健康調査表」各項目の評価に基づき、園児を各

傾向「有群」(非常に・はい、しばしば・時々)と「無群」(ちがう、いいえ)に分けた。

「感情・行動に関する評価表」各項目得点について、「健康調査表」の各項目の「有群」と「無群」との平均得点を求め、 t 検定を行った。表1-1～17は、群間に有意差の認められた項目について、その

結果をまとめたものである。

「お子さんは内気なほうですか。」に保護者が子にその傾向が有るとした群は、無いとした群に比して、幼稚園の担任は「ふさぎこんでいて、悲しくて暗い気分ではいますか。」「他の人に対してや、新しい状況では引っ込み思案ですか。」「ブランコやすべり

表1-1 「お子さんは内気なほうですか。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	n	m	SD	t	p
E05 ふさぎこんでいて、悲しくて暗い気分ではいますか。	無群	45	2.16	1.09	-2.08	0.041
	有群	35	2.80	1.68		
E06 何かをしたい衝動にかられると、結果も考えずに、時のはずみで行動してしまいますか。	無群	44	3.64	2.23	2.84	0.006
	有群	35	2.38	1.46		
E08 議論を好み、口げんかをしますか。	無群	45	4.09	2.43	1.74	0.086
	有群	35	3.14	2.40		
E09 いらいらして怒りっぽいですか。	無群	45	3.69	2.16	2.05	0.044
	有群	35	2.74	1.88		
E11 他の人に対してや、新しい状況では引っ込み思案ですか。	無群	45	3.80	2.19	-5.43	0.000
	有群	35	6.34	1.92		
E12 非常に人なつっこくて、他の人と一緒にいるのが好きですか。	無群	45	6.44	1.67	2.20	0.031
	有群	35	5.60	1.74		
S01 いやなことは、はっきりいやと言える。	無群	45	7.20	1.27	3.58	0.001
	有群	35	6.00	1.73		
S04 ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。	無群	45	7.07	1.62	-2.74	0.008
	有群	35	7.94	1.11		
S05 制止するとわざととする。	無群	45	2.84	1.81	2.49	0.015
	有群	35	1.91	1.44		

表1-2 「反抗的である。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	n	m	SD	t	p
E03 怒りに対して黙っていらついているが、それを直接あらわすことができませんか。	無群	52	3.52	2.29	-1.92	0.058
	有群	26	4.58	2.30		
E09 いらいらして怒りっぽいですか。	無群	53	2.96	2.08	-1.91	0.060
	有群	27	3.89	1.99		
E10 いらいらして怒りっぽいですか。	無群	53	3.87	2.41	-1.74	0.085
	有群	26	4.92	2.76		
S03 遊び方や制作などにアイデアをもっている。(教師にいちいち聞かずに、自分のアイデアでどんどんする)	無群	53	5.96	1.84	3.01	0.003
	有群	27	4.59	2.08		

表1-3 「お子さんは神経質ですか。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	n	m	SD	t	p
E10 他の人と一緒にいる時、まわりの人達が自分のことをどう思っているか気にしますか。	無群	48	3.65	2.245	-2.54	0.013
	有群	31	5.10	2.797		
E11 他の人に対してや、新しい状況では引っ込み思案ですか。	無群	49	4.37	2.270	-2.62	0.011
	有群	31	5.77	2.446		
S04 ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。	無群	49	7.22	1.545	-1.74	0.086
	有群	31	7.81	1.302		

表1-4 「どもる。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E03 怒りに対して黙っていらついているが、それを直接あらわすことができませんか。	無群	71	3.72	2.269	-1.88	0.064
	有群	7	5.43	2.573		
S02 入りたい遊びに自分から「入れて」と言える。	無群	72	7.61	1.439	1.78	0.080
	有群	8	6.63	1.923		

表1-5 「食欲がない。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E06 何かをしたい衝動にかられると、結果も考えずに、時のはずみで行動してしまいますか。	無群	59	3.31	2.168	1.68	0.097
	有群	19	2.42	1.305		
E11 他の人に対してや、新しい状況では引っ込み思案ですか。	無群	61	4.56	2.349	-2.42	0.018
	有群	19	6.05	2.368		

表1-6 「偏食がある。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
S04 ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。	無群	39	7.13	1.750	-1.94	0.056
	有群	41	7.76	1.090		

表1-7 「便秘がある。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E06 何かをしたい衝動にかられると、結果も考えずに、時のはずみで行動してしまいますか。	無群	66	3.27	2.102	1.91	0.060
	有群	12	2.08	1.084		
S04 ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。	無群	67	7.30	1.518	-2.13	0.036
	有群	13	8.23	.927		

表1-8 「ぜんそく（ゼーゼーいう）がある。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E01 刺激を求めて新しいことをしますか。	無群	74	4.81	2.470	1.76	0.083
	有群	6	3.00	1.673		
S01 いやなことは、はっきりいやと言える。	無群	74	6.77	1.558	1.90	0.061
	有群	6	5.50	1.761		
S03 遊び方や制作などにアイデアをもっている。(教師にいちいち聞かずに、自分のアイデアでどんどんする)	無群	74	5.65	2.003	2.38	0.020
	有群	6	3.67	1.211		

表1-9 「じんましんや湿疹がある。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E12 非常に人なつっこくて、他の人と一緒にいるのが好きですか。	無群	57	6.32	1.671	1.98	0.051
	有群	23	5.48	1.806		
S02 入りたい遊びに自分から「入れて」と言える。	無群	57	7.72	1.411	1.96	0.053
	有群	23	7.00	1.651		

表1-10 「よくかぜをひく。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
S02 入りたい遊びに自分から「入れて」と言える。	無群	40	7.83	1.279	1.88	0.064
	有群	40	7.20	1.667		
S05 制止するとわざとする。	無群	40	2.80	1.964	1.93	0.058
	有群	40	2.08	1.347		

表1-11 「家事などのお手伝いをする。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
S02 入りたい遊びに自分から「入れて」と言える。	無群	6	6.17	2.137	-2.33	0.022
	有群	74	7.62	1.411		

表1-12 「寝起きが悪い。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E03 怒りに対して黙っていらついているが、それを直接あらわすことができませんか。	無群	53	3.51	2.301	-2.04	0.045
	有群	25	4.64	2.252		
S03 遊び方や制作などにアイデアをもっている。(教師にいちいち聞かずに、自分のアイディアでどんどんする)	無群	55	5.22	1.988	-1.88	0.064
	有群	25	6.12	1.986		

表1-13 「睡眠が浅い。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
S04 ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。	無群	69	7.57	1.450	1.77	0.080
	有群	11	6.73	1.489		

表1-14 「爪かみがある。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E10 他の人と一緒にいる時、まわりの人達が自分のことをどう思っているか気にしますか。	無群	59	3.85	2.462	-2.25	0.027
	有群	20	5.30	2.598		
S02 入りたい遊びに自分から「入れて」と言える。	無群	60	7.33	1.537	-1.87	0.066
	有群	20	8.05	1.317		

表1-15 「指しゃぶりがあがる。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E12 非常に人なつっこくて、他の人と一緒にいるのが好きですか。	無群	62	6.26	1.783	1.77	0.081
	有群	18	5.44	1.464		
S02 入りたい遊びに自分から「入れて」と言える。	無群	62	7.71	1.395	2.22	0.029
	有群	18	6.83	1.724		
S04 ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。	無群	62	7.61	1.453	1.86	0.066
	有群	18	6.89	1.451		

表1-16 「夏に人より暑がる。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E05 ふさぎこんでいて、悲しくて暗い気分です。	無群	48	2.19	1.045	-1.99	0.050
	有群	32	2.81	1.768		

表1-17 「外であまり物をいわない。」有無群間の項目得点の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
E04 何か悪いことが起こるのではないかと考えているため用心深いですか。	無群	62	4.08	2.485	-2.21	0.030
	有群	18	5.56	2.502		
E05 ふさぎこんでいて、悲しくて暗い気分です。	無群	62	2.24	1.197	-2.38	0.020
	有群	18	3.11	1.844		
E11 他の人に対してや、新しい状況では引っ込み思案ですか。	無群	62	4.50	2.359	-2.96	0.004
	有群	18	6.33	2.142		
S01 いやなことは、はっきりいやと言え。	無群	62	6.87	1.476	2.08	0.041
	有群	18	6.00	1.847		

台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。」といった傾向が有意に高いと評価している。一方、「何かをしたい衝動にかられると、結果も考えずに、時のはずみで行動してしまいますか。」「議論を好み、口げんかをしますか。」「いらいらして怒りっぽいですか。」「非常に人なつこくて、他の人と一緒にいるのが好きですか。」「いやなことは、はっきりいやと言え。」「制止するとわざとずる。」といった傾向は低いとされている。

保護者が「反抗的である」とした園児については、「怒りに対して黙っていらついているが、それを直接あらわすことができませんか。」「いらいらして怒りっぽいですか。」「いらいらして怒りっぽいですか。」の評価が有意に高く、これに対して、「遊び方や制作などにアイデアをもっている。(教師にいちいち聞かずに、自分のアイデアでどんだんする)」傾向は、低いと評価されている。

「お子さんは神経質ですか。」との問いに保護者が有りとした園児は、「他の人と一緒にいる時、まわりの人達が自分のことをどう思っているか気にしますか。」「他の人に対してや、新しい状況では引っ込み思案ですか。」「ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。」傾向が、無いとされた園児に比して有意に高いと教師に評価された。

「どる。」ことがあるとされた子は、ない子に比して「怒りに対して黙っていらついているが、それを直接あらわすことができませんか。」の傾向が有意に高く、「入りたい遊びに自分から“入れて”と言え。」傾向が低かった。

「食欲がない。」とされた子は、「何かをしたい衝動にかられると、結果も考えずに、時のはずみで行動してしまいますか。」の評価が低く、「他の人に対してや、新しい状況では引っ込み思案ですか。」の

評価が高かった。

「偏食がある。」とされた子は、「ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。」の評価が高かった。

「便秘がある。」では、「何かをしたい衝動にかられると、結果も考えずに、時のはずみで行動してしまいますか。」が低く、「ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。」が高い。

「ぜんそく(ゼーゼーいう)がある。」では、「刺激を求めて新しいことをしますか。」「いやなことは、はっきりいやと言え。」「遊び方や制作などにアイデアをもっている。(教師にいちいち聞かずに、自分のアイデアでどんだんする)」が低い。

「じんましんや湿疹がある。」では、「非常に人なつこくて、他の人と一緒にいるのが好きですか。」「入りたい遊びに自分から“入れて”と言え。」が低い。

「よくかぜをひく。」では、「入りたい遊びに自分から“入れて”と言え。」「制止するとわざとずる。」が低い。

「家事などのお手伝いをする。」では、「入りたい遊びに自分から“入れて”と言え。」が高い。

「寝起きが悪い。」では、「怒りに対して黙っていらついているが、それを直接あらわすことができませんか。」「遊び方や制作などにアイデアをもっている。(教師にいちいち聞かずに、自分のアイデアでどんだんする)」が高い。

「睡眠が浅い。」では、「ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。」が低い。

「爪かみがある。」では、「他の人と一緒にいる時、まわりの人達が自分のことをどう思っているか気にしますか。」「入りたい遊びに自分から“入れて”と

言える。」が高い。

「指しゃぶりがある。」では、「非常に人なつこくて、他の人と一緒にいるのが好きですか。」「入りたい遊びに自分から“入れて”と言える。」「ブランコやすべり台を何人かの友達と一緒に使える。かわりばんこができる。」が低い。

「夏に人より暑がる。」では、「ふさぎこんでいて、悲しくて暗い気分ですか。」が高い。

「外であまり物をいわない。」では、「何か悪いことが起こるのではないかと考えているため用心深いですか。」「ふさぎこんでいて、悲しくて暗い気分ですか。」「他の人に対してや、新しい状況では引っ込み思案ですか。」が高く、「いやなことは、はっきりいやと言える。」が低い。

2 「健康・行動状態」と情動特性、自己主張・抑制傾向

三根（齊木）（1995）（p.122）と同様の手順で、

日本語版 CRI の項目得点から基本情動得点を算出した。また、自己制御項目についても同様に、柏木（1988）を参考にして、自己主張・実現総得点（S01 + S02 + S03）/3 と自己抑制総得点（S04 + S05 + S06 + S07）/4 を求めた。

（1）基本情動得点における差異

図1-1～6は、それぞれの家庭における「健康・行動状態」においていずれかの基本情動得点において、有・無群間に有意差の認められた項目について図示したものである。

「お子さんは内気なほうですか」に保護者があてはまると答えた園児は、「恐れ」得点が高く、「驚き」が低い。「反抗的である」とされた子は、「怒り」「嫌悪」の得点が高い。「お子さんは神経質ですか」では、「恐れ」「期待」得点が高くなっている。これらの保護者によってなされた気質的な項目の評価は、幼稚園担任教諭によってなされた評価にもとづく基本情動得点との整合性が認めらる。

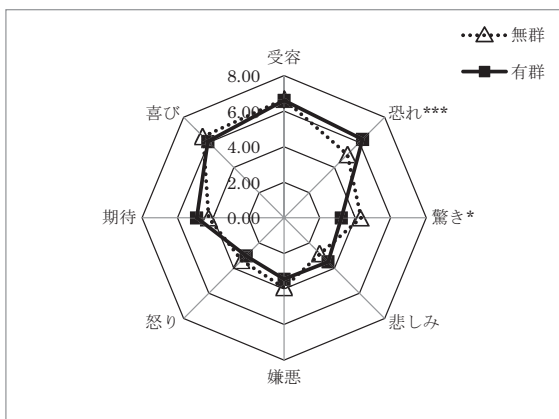


図1-1 「お子さんは内気なほうですか。」
有無群間の基本情動得点の差異 + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

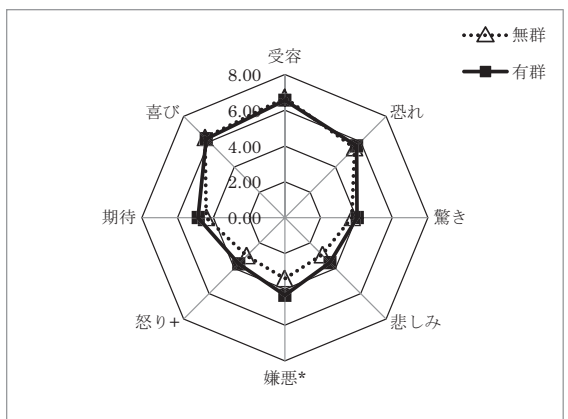


図1-2 「反抗的である。」
有無群間の基本情動得点の差異 + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

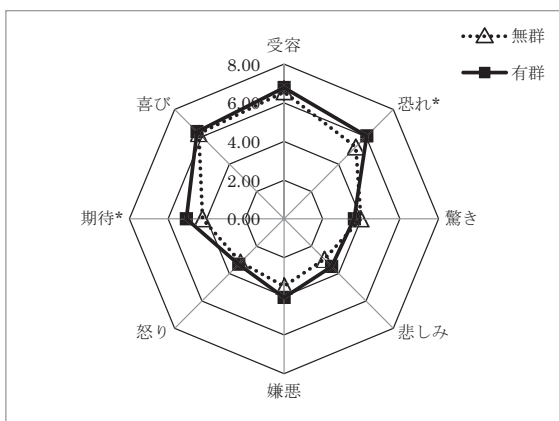


図1-3 「お子さんは神経質ですか。」
有無群間の基本情動得点の差異 + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

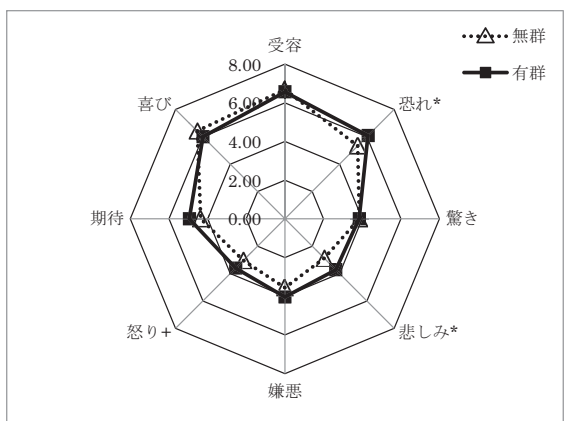


図1-4 「寝起きが悪い。」
有無群間の基本情動得点の差異 + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

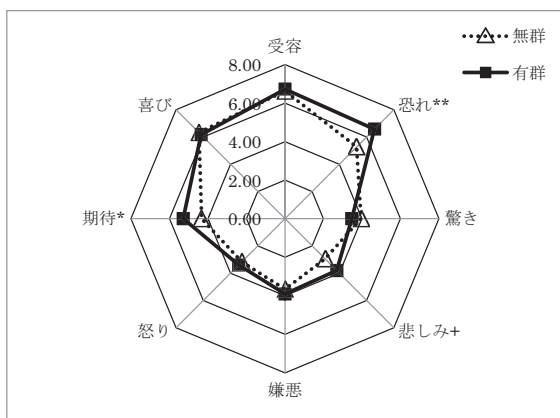


図1-5 「外であまり物を言わない。」
有無群間の基本情動得点の差異 + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

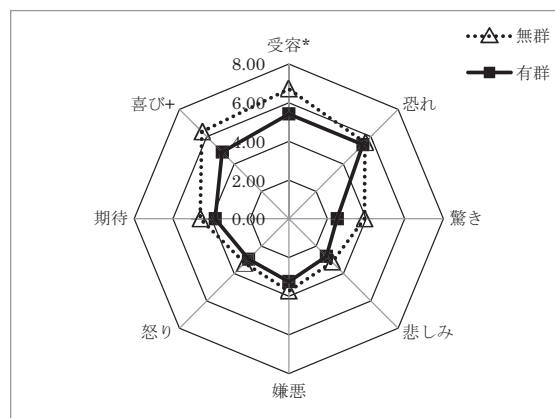


図1-6 「幼稚園に行くのを嫌がる。」
有無群間の基本情動得点の差異 + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

一方、日常的な問題行動では、「寝起きが悪い」とされた子は、「恐れ」「悲しみ」「怒り」が高い。「外であまり物を言わない」では「恐れ」「悲しみ」「期待」が高かった。また、「幼稚園に行くのを嫌がる」では、「受容」と「喜び」が低くなっている。

(2) 自己制御得点における差異

表2-1, 2は、自己制御得点において群間に有意差が認められた項目についてまとめたものである。

「お子さんは内気なほうですか」において保護者にあてはまるとされた子は、担任教諭の評価で「自己主張・実現総得点」が低く、「自己制御総得点」が高い。また、「反抗的である」とされた子は「自己主張・実現総得点」が低かった。

「どもる」「ぜんそく（ゼーゼーいう）がある」で

も「自己主張・実現総得点」が低かった。

一方、「家事などのお手伝いをする」の有群は無群より「自己主張・実現総得点」が有意に高い。

3 まとめ

「寝起きが悪い」「外であまり物を言わない」といった傾向が有るとされた群は無群に比して、「恐れ」「悲しみ」得点が有意に高かった。これらのネガティブな情動性が問題行動を引き起こしているのか、問題行動がネガティブな情動をもたらしているのか、相互作用があるのかは明らかではないが、対象児がもともと有している生理的特性と環境との両視点での支援を考える必要がある。

「幼稚園に行くのを嫌がる」傾向があるとされた

表2-1 有無群間の「自己主張・実現総得点」の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
お子さんは内気なほうですか。	無群	45	6.78	1.133	1.69	0.096
	有群	35	6.29	1.478		
反抗的である。	無群	53	6.74	1.261	1.68	0.097
	有群	27	6.22	1.359		
どもる。	無群	72	6.64	1.290	1.68	0.097
	有群	8	5.83	1.345		
ぜんそく（ゼーゼーいう）がある。	無群	74	6.66	1.268	2.47	0.016
	有群	6	5.33	1.282		
家事などのお手伝いをする。	無群	6	5.67	1.921	-1.77	0.081
	有群	74	6.64	1.238		

表2-2 有無群間の「自己制御総得点」の差異

項 目	傾向	<i>n</i>	<i>m</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>p</i>
お子さんは内気なほうですか。	無群	45	1.5500	1.27765	-1.79	0.077
	有群	35	2.0286	1.04806		

群は、「受容」「喜び」得点が低かった。登園拒否においては、他者と関わることの楽しさを体験できることが重要な解決策になるかもしれない。

また、「どもる」「ぜんそく（ゼーゼーいう）がある」傾向を有する群は、自己主張・実現総得点が無群に比して低かった。こういった情緒的問題については、適切に自己を表現できる術を対象児が身につけられるようになる援助が必要である。

一方、「家事などのお手伝いをする」有群では、自己主張・実現総得点が高い傾向にあった。家事の手伝いをするといった行動が子どもの望ましい自己制御機能の発達を促す可能性が示唆された。家庭では、家事手伝い、園では、当番等、自ら主体的な役割をもち、成功体験を積み重ねることが、社会における「生きた」適切な自己制御能力の実質的な獲得に有用である可能性が考えられる。

情動の制御は、認知の制御と異なり、「頭でわかっている」だけでなく、「身体が覚える」必要がある。子どもたちに対して、どのような体験を積み重ねる機会を用意するかをより積極的に検討する必要があると思われる。

引用文献

- Brody, C., Plutchik, R., Reilly, E. & Peterson, M. 1973 Personality and problem behavior of third-grade children in regular classes. *Psychology in the Schools*, **10**, 196-199.
- 中央教育審議会 2016 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善および必要な方策等について（答申）文部科学省 HP.
- Hama, H. & Plutchik, R. 1975 Personality profiles of Japanese college students: A normative study, *Japanese Psychological Research*, **17**, 141-146.
- 浜治世・三根（齊木）久代 1995 痒みに関する実験心理学的および臨床心理学的研究, 心理学モノグラフ No.24, 日本心理学会.
- 広利吉治・倉戸直美・渡辺純・倉戸幸枝・山本泰三・竹内和子・上原明子・村上優・山本真由美・若江真紀・宝田穂 1994 幼児とコンピュータ (1) 一家庭用テレビゲームに対する親の意見と子どもの心身の発達について 日本保育学会第47回大会研究論文集, 728-729.
- 松山義則・浜治世 1974 感情心理学 第1巻 感情と情動 誠信書房
- 三根（齊木）久代 1993 幼児用評定尺度における情動 聖和大学論集 第21号, 139-146.
- 三根（齊木）久代 1995 幼児期における感情特性の発達—基本情動と自己制御機能との関連 聖和大学論集 第23号 A, 119-127.
- 文部科学省 2017 幼稚園教育要領 文部科学省 HP

- Plutchick, R. 1962 *The emotions: Facts, theories, and a new model*. New York: Random House
- Plutchick, R. 1980 *Emotions: A Psychoevolutionary Synthesis*. New York: Random House.
- Plutchik, R., & Kellerman, H. 1974 *Manual of the Emotions Profile Index*. Los Angeles: Western Psychological Services.
- 齊木久代 2014 過去20年間における保育系学生の情動特性の変化 聖和論集 第42号, 13-22.